

日本風景街道だより

2010年増刊号 Vol. 13

★目 次★

10/1~2 開催 第5回北陸風景街道交流会議 P 2

10/29~30 開催 日本風景街道大学 P 4

11/12~13 開催 日本風景街道シンポジウム in しまね P 9

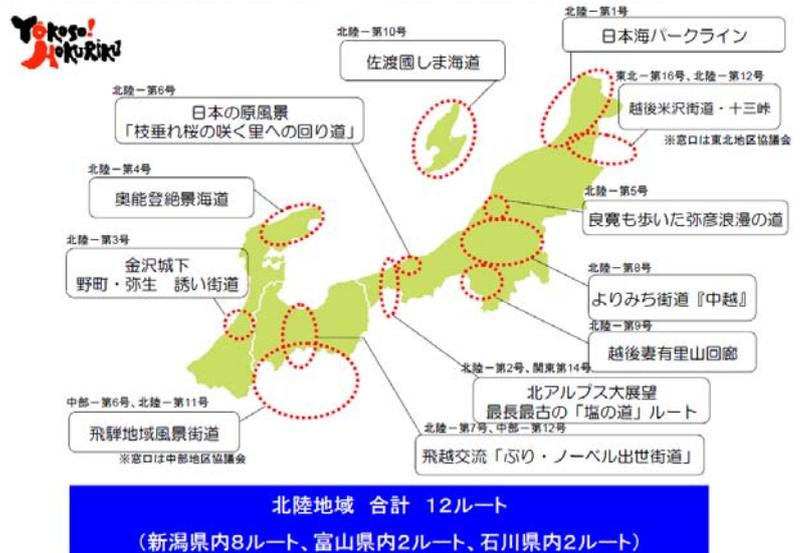
11/27 開催 シーニックバイウェイ北海道
地域交流会議 全道フォーラム2010 P 12

第5回 北陸風景街道交流会議 (北陸風景街道協議会)

1. 北陸 風景街道

北陸地域における風景街道は、平成19年10月より登録がスタートし、平成21年10月現在で、新潟県8ルート、富山県2ルート、石川県2ルートの合計12ルートが登録され、各地で活動が展開されています。

● 北陸 風景街道 登録ルート一覧 (H22年12月現在)



2. 「北陸 風景街道交流会議」とは

北陸風景街道協議会では、支援の一貫として北陸地域における風景街道登録ルートを対象に継続的な活動に繋げることを、より活発な活動とすることを目的として、平成18年度から「北陸 風景街道交流会議」を年1回開催しています。

3. 開催概要

- ◇ 日程 : 平成22年10月1日(金)、2日(土)
- ◇ 会場 : ヒスイ王国館(新潟県糸魚川市)
- ◇ 概要 : 10月1日(金) 交流会議
10月2日(土) 現地勉強会



写真-1 開催地・糸魚川市長のあいさつ

4. 開催内容

(1) 講演

東京大学アジア生物資源環境研究センター 堀繁教授より、『「もてなしの道づくり」～空間のしつらえで賑わいを演出する～』と題し、お話いただきました。

「まちづくりはホスピタリティ表現を意識すること(車優先の道に人は来ない、道の特等席は中央、人の空間である歩道が真ん中にあること、ベンチは重要。)」 「来訪者は誰かの笑顔を見ることで、自分も楽しく思えてくる。」とお話があり、参加者は大変興味深く聴講しました。

(2) 全体ディスカッション

今回5回目となったディスカッションでは、「広域連携・地域振興」、「組織運営」の2つのテーマを設定し、議論しました。



写真-2 講演のようす

今回、コーディネーターとして、(株)富士通総研エグゼクティブコンサルタント第一コンサルティング本部PPP推進担当理事の臼井純子さんに進行をお願いし、パネリストとして北海道シーニックバイウェイ「大雪・富良野ルート」に携わっていらっしゃる一般社団法人大雪・富良野ルートサポートセンター理事の谷川良一さん、九州風景街道の「日南海岸きらめきライン」に携わっていらっしゃる日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会事務局長の谷越衣久子さんにご参加いただきました。また、講演に引き続き、東京大学の堀繁教授にもパネリストとしてご参加いただきました。



写真・3 全体ディスカッションのようす

『広域連携・地域振興』については、「連携することが目的ではないので、目的を明確にして目標を設定する。」「連携相手をビジネス相手とする。」との意見がありました。『資金調達』については、「儲ける意識が活動の継続に繋がる。」とコメントをいただき、「北海道では支援センターが受け皿として存在するため、助成金応募の話がしやすいし、民間企業の方から出資の話が来ている。北陸にもあったほうが良いと思う。」と事例の紹介などもありました。『人材確保』については、「支援センターからサテライト員として当会に来た方が、今中心メンバーになっている。」「活動には休憩も必要、また活動をやりたいと思った方が中心になってくる。」と意見がありました。

(3)活動報告会

今年度の活動について、9ルートの代表者から報告があり、清掃活動等の沿道環境の整備・改善、フォトコンテスト、他地域におけるルートとの意見交換会等の地域資源発掘やホームページでの情報発信等の活動の報告がありました。これらの報告について、全体ディスカッションに参加いただいたパネリストよりアドバイスを頂きました。また、交流会議後の「交流会」では、各パートナーシップ間で情報交換・意見交換が活発に行われました。



写真・4 活動報告会のようす



写真・5 活動報告会での質疑応答のようす

5. 最後に

北陸風景街道の登録から丸3年が経過し、各ルートの活動はより具体化しています。引き続き、元気な北陸地域を目指し、今後も活動を展開していきたいと思えます。

「日本風景街道大学」宮崎大学にて開講！（日南海岸きらめきライン）

日南海岸きらめきラインは、宮崎市、日南市、串間市を結ぶ国道220号と活動エリアを結ぶ国道222号、国道448号において「うつくしの道づくり」、「もてなしの道づくり」、「神話と歴史の道づくり」の3つの道づくりを柱に活動しているルートです。

この度、10月29、30日に、日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会主催による「日本風景街道大学」を宮崎大学にて開講しました。講義は(1)風景街道活動の意義、(2)「新しい公共」の時代における市民・行政・民間の役割、の2つを大きなテーマとして、全国レベルでご活躍の有識者・実践者のご講演をいただきました。会場には、県内だけでなく東京、福岡からの参加者も含め、2日間で185名もの多くの方が訪れて熱心に聴講されました。今回はこの「日本風景街道大学」の模様をご報告します。



来賓挨拶をされる宮崎大学の菅沼龍夫学長

「日本風景街道大学」開講の背景と意図

日南海岸きらめきラインは平成19年11月の風景街道認定より、「うつくしの道づくり」「いやし・もてなしの道づくり」「神話・歴史のみちづくり」の3つを柱に様々な活動を実施してきました。特に、ルート全体としては「うつくしの道づくり」として景観診断、花で地域を結ぶ一斉活動、花の苗供給システムづくりを、「いやし・もてなしの道づくり」として地域との交流によって着地型観光をめざすモニターツアー、テーマで地域を結ぶモニターツアーを、「神話・歴史の道づくり」として旧街道の発掘調査、神話読本の発行、神話語り部モニターツアーを行ってきました。



花苗の生産から植栽活動までをめざす「うつくしの道づくり」

更に、ルートを構成する5つのエリアについては、地域資源の新たな活用方法を探るための様々な活動を、「それぞれのエリアにおいて、行政、住民、民間団体等の方々パートナー



着地型観光として商品化を目指すモニターツアー

ーシップによって自立的な地域づくり活動を企画・実施し、持続可能な地域を目指す」ことを目標に実施してきました。

しかし現実には、パートナーシップの考え方の相違や、コーディネータやリーダーの不足等、多くの課題も明らかになってきました。そこで本年度は、従来の個別の活動支援に併せて、関係者が活動の意義を幅広く学ぶ機会を設けるということを意図した次第です。

そして、せっかく学ぶのであれば、「充実した内容」を「適切な場所」でとの考えから、会場を宮崎大学とし、テーマも格調高く「風景街道活動の意義」と「新しい公共の時代におけるパートナーシップのあり方」として、「風景街道大学」の企画に至りました。また、きらめきライン関係者の視線を全九州・全国に開くこと、全九州、全国レベルで風景街道間の連携を築くことが重要と考え、全国レベルで活躍されている講師陣をお迎えし、聴講者もきらめきライン関係者だけでなく、「風景街道活動の趣旨に賛同する者」として広く募集しました。これが「日本」風景街道大学とした由縁です。

「日本風景街道大学」の内容

今回の日本風景街道大学のカリキュラムを右表に示します。開講式では関係各機関からの主催・後援者挨拶をいただきましたが、今回は「第1回日本風景街道大学」の宮崎大学での開講でもあり、菅沼宮崎大学学長から「宮崎大学としても地域貢献は重要」とのお言葉をいただきました。

講義は2日間にわたって行なわれました。テーマ1「風景街道活動の意義」については、樗木武氏(九州大学名誉教授)による「九州風景街道の概要と現状」、阿部悟氏(国土交通省道路局沿道環境

カリキュラム 1日目	
10/29 (金)	13:20 開講式・開講式 / オリエンテーション 14:00 カリキュラム1【九州風景街道の概要と現状】 -九州風景街道の概要と現状 講師：樗木武(九州大学名誉教授) -討論 講師：吉武哲信 15:30 カリキュラム2【パートナーシップで実現する元気な地域】 -地域力+行政力による地域づくり(大雪・富良野ルート) 講師：谷川 良一((社)大雪・富良野ルートサポートセンター理事) -討論 講師：吉武哲信 17:00 カリキュラム3【地域の自立をめざして】 -コミュニティビジネスから6次産業へ 講師：白井 純子((株)富士通総研 PPP推進担当理事) -討論 講師：出口近士 18:20 終了予定
カリキュラム 2日目	
10/30 (土)	9:00 カリキュラム4【地域の魅力の見つけ方・磨き方】 -ふるさと見分けと風景道 講師：桑子 敏雄(東京工業大学教授) 10:30 カリキュラム5【パートナーシップの役割と風景づくり】 -風景・みち・協働 講師：石田東生(筑波大学教授) -討論 講師：吉武哲信 13:00 カリキュラム6【道づくりと交流による地域振興・観光振興】 -北海道シニクにおける「道づくり、交流づくり」 講師：原文宏((社)シニクバイウェイ支援センター理事) -討論 講師：出口近士 14:30 カリキュラム7【日本風景街道の概要と現状】 -日本風景街道の取り組み~美しい国づくりを目指して~ 講師：吉崎 収(国土交通省道路局環境保全課長) -討論 講師：出口近士 16:00 カリキュラム8【討論とまとめ】 -グループ討論(全員) -グループ発表、全体討論、まとめ(全員) 18:00 閉講式 / 修了証書授与(18:30 終了予定)



専門官)による「日本風景街道の取り組み」の講義が行なわれ、日本における美しい国づくりの歩み、日本風景街道の全国の現状や社会資本整備総合交付金制度等の紹介がありました。また、そもそも風景を語り味わう意義について桑子敏雄氏(東京工業大学教授)から「ふるさと見分けと風景道」の講演をいただきました。

さらに、テーマ2「新しい公共の時代におけるパートナーシップのあり方」については、谷川良一氏((社)大雪・富良野ルートサポートセンター理事)の「住民参加型から行政参加型の地域づくり」、臼井純子氏の「コミュニティビジネスから6次産業へ」において、地域活動における経済基盤確保の重要性を講義いただき、原文宏氏((社)シーニックバイウェイ支援センター理事)による「北海道シーニックにおける『道づくり、交流づくり』」、石田東生氏(筑波大学教授)による「風景・みち・協働」では、組織・人づくりと連携・協働の重要性を講義いただきました。



講義に熱心に聞き入る受講者

また、2日間の日本風景街道大学の締めくくりとして、2日目の最後のコマでは石田先生の全体コーディネートによる「協働・連携のマネジメントをどうするか？」



講師も受講者も一体となったの討論

「かね(活動資金)はどのように得るのか?」「地域資源の発掘と再発見の方法は?」の3つをテーマとしたワークショップを実施しました。講師陣も含め、様々な立場の参加者が混ざり合っ



課題解決のための討論にも熱が入った

班ごとの議論がなされましたが、最後の発表では、「地域と企業、行政をつなぐ接着剤的な中間組織（事務局）が必要である。その機能を継続させていくためには、多くの人が中間組織に参加し支えていくことが重要である」「多様な関係者がお互いの利益になることを培いながら信頼関係を築くことが自立した活動につながっていく。お互いの利益を生み出しに行くにはネットワーク＝人とのつながりが大切であり、パートナーシップで取り組む風景街道の強みはそこにある」「地域資源への気づきが大切である。そのためには地元・よそ者・多世代・専門家など多様な価値観の人たちの視点が必要である。また、その地域資源を磨くためには、魅力を伝え、新たな価値を創り出し、改善し、負の価値は除くという伝・創・改・除の方法が有効である」等の意見もあり、参加者にはそれぞれ、有意義なWSとなったようです。

なお、ここでは紙面の都合上、講義内容等の詳細をお伝えすることはできません。これについては後日、報告書を作成しますので、興味があればご連絡下さい。

受講者の皆さんの評価と今後の課題

「日本風景街道大学」の全カリキュラムの終了後、宮崎大学生協で簡単な交流会を実施しました。そこでは、とても楽しそうに「とても興味深い講義だった」「風景を見る目が変わった」「目からウロコの講義だった」「パートナーシップの意味を考え直した」「また受講したい」のように会話されている声があちこちで聞かれました。また、講義終了後のアンケートからは「ビジネスとして成り立って地域に還元することが、まちづくりの成功なのだった」「各々が考え、連携パートナーシップで考えることが重要だと感じた」「行政と民間がうまく連携していくためのヒントがたくさん得られて参考になった」「風景について、これまでとは全く異なる視点で捉えており非常に良かった。機会があれば、今後も講聴してみたい」のような意見もいただきました。この意味で、今回の日本風景街道大学は大成功だったと言ってよいでしょう。

他方、懇親会やアンケートからは「一般の参加者には難しかった」、「どちらかといえば行政向きだったのでは？」とのご意見もいただきました。今回は、「第1回日本風景街道大学」であったこともあり、テーマを理念的なものに設定しましたが、今後は風景街道活動に参加されている市民の方々、観光関係者、地元企業、あるいはまちづくり活動を担っているの方々等、多様な方々を対象としたテーマ別講義も必要であると考えています。



受講者のみなさんには修了証書が授与される

今後に向けて

講師陣、受講者の皆様からは「来年も是非実施すべき」とのお声を数多くいただいています。また、上で述べたように、様々な方々に多様な学びの機会を提供していきたいと考えており、今後も継続することが大切だと考えています。また、宮崎での「日本風景街道大学」が全九州・全国各地の風景街道と交流できる機会となれば、日南海岸きらめきラインの発展と共に、日本風景街道活動の活性化にも貢献できるのではないかと考えています。

さらに、九州、全国における他の風景街道においてもこのような学びの機会を設けられ、「日本風景街道大学」が各地域でそれぞれ開講されるようになれば、日本風景街道の活動も一層の活性化に繋がるのでは、と期待しています。その際、今回の日南海岸きらめきラインがご協力させていただくことがあれば、私どもとしても幸いに存じます。

なお、最後になりましたが、「日本風景街道大学」は、宮崎大学、日本風景街道九州ネットワーク、シーニックバイウェイ支援センター、道守九州会議、都市計画学会九州支部、風景デザイン研究会、九州建設弘済会、国土交通省九州地方整備局、宮崎県、宮崎市、日南市、串間市のご後援をいただき、開催いたしました。ここに関係機関のご理解とご協力を厚く感謝申し上げますと共に、今後も引き続きご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます次第です。



「日本風景街道大学」継続の願いを込めて撮った、講師と閉校式まで残った受講者との記念写真

日本風景街道シンポジウム in しまね (湖水街道推進会議)

平成22年11月12日(金)、島根県松江市のくにびきメッセ3階「国際会議場」において『日本風景街道シンポジウム in しまね』を開催しました。

本シンポジウムでは、出雲の神芝居一座の松田順座長による出雲神話紙芝居、筑波大学大学院の石田東生教授及び万九千神社・立虫神社禰宜島根県神社庁主事の錦田剛志氏の講演、また、関西以西の日本風景街道パートナーシップ団体の中から5団体の代表者をお招きして「日本のこころを魅了する風景～聖地巡拝と日本風景街道～」と題したパネルディスカッションを開催しました。活発な議論のもと、約180名の参加者が熱心に傍聴されました。さらに、翌日の平成22年11月13日(土)には、出雲神話を肌で感じていただく「神話体験ツアー」を開催しました。

■『日本風景街道シンポジウム in しまね』

とき：平成22年11月12日(金) 13:00～16:30

場所：くにびきメッセ3階国際会議場(松江市学園南1丁目2番1号)

主催：湖水街道推進会議 共催：中国地方風景街道協議会

参加人数：約180名



(1)出雲の神話紙芝居「くにびきのおはなし」

【演者】松田 順(出雲の神芝居一座 座長)

出雲国風土記に記される「国引き神話」を、松田氏ご自身が手作りした“紙芝居”で、身振り手振りを交えて分かりやすく演じていただきました。最後は、出会えたご縁に感謝し万歳で締めくくられました。



松田順氏

(2)《記念講演》神々の集う国「出雲」—神在月の謎に迫る—

【講演者】錦田剛志(万九千神社・立虫神社禰宜 島根県神社庁主事)

出雲ではなぜ「神在月」とよばれているのか、また、神を迎える神事の意味合いや神様の滞在中はどこに住まれているのか等、あまり知られることのない謎に包まれた「出雲」について分かりやすくご講演いただきました。「出雲大社には神々が住まう場所があり、神々を通られる道がある。その神聖な道を守っていくことが大事」と訴えられました。



錦田剛志氏

(3)《基調講演》「風景・みち・協働」

【講演者】石田東生(筑波大学大学院システム情報工学研究所教授)

「風景・みち・協働」と題し今後の日本風景街道のあり方についてご講演いただきました。日本は美しい風景を随所にもちながら、一方で、「風景の衰え」＝「風景の写り込む地域そのものの衰え」が進んでいることを示されました。ハイウェイの整備を進めると同時にバイウェイの活用を進める必要があることを力説されました。そのために、地域の皆さんが「和」を背負って、「ワッショイ」と掛け声をかけて地域づくりを進めていくことを勧められました。



石田東生氏

(4) パネルディスカッション「日本のこころを魅了する風景」～聖地巡拝と日本風景街道～

- パネリスト 裏宗久（日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会会長）
谷越衣久子（日南海岸地域シビック・ワイ推進協議会）
新谷 稔（むれ源平まちづくり協議会会長）
野辺一寛（風待ち海道協議会）
石村隆男（湖水街道推進会議）

- アドバイザー 石田東生（筑波大学大学院システム情報工学研究所教授）
石川雄一（国土交通省中国地方整備局道路部長）

- コーディネーター 三代隆司（湖水街道推進会議座長）



近畿、中国、四国、九州の日本風景街道5団体の代表者が集まりそれぞれの活動紹介を行いました。ディスカッションでは、地域づくりに公民館活動を組み入れたこと、広域エリアで連携していくときのポイント、街道でのおもてなしの工夫などで意見交換を行いました。広域エリアの連携では共通のテーマを持つことが大事であること、おもてなしの工夫では地域の歴史・文化を踏まえたおもてなしの形があること、特産品のショップでの情報提供の必要性などを議論しました。

それぞれの地域の好きな風景では、長い道りを歩きたどり着いた伊勢神宮の神域の風景、常緑樹の中に咲く山桜と青い海のコントラスト、朝日や夕日を受けた自然の風景などが挙げられ、風景は季節、時間、匂い、音、光によって、様々に変化し楽しめるものだということが理解できました。

アドバイザーからは、風景街道により地域の連携を図り滞在時間を長くさせることで地域を潤わせること、地域づくりのキーポイントである「地域資源の掘り起こし」「情報発信」「活動する人」の要素を活かして取り組んでいくことなどのアドバイスがありました。本日のパネルディスカッションで得られた成果をそれぞれが地域に持ち帰り、今後の活動に活かすことを申し合わせ、閉会しました。



【トピックス】 パートナーシップ団体の名称変更

本シンポジウムの冒頭で、主催者である三代座長より、パートナーシップ団体の名称変更について説明を行いました。

「人間文化の原風景～神仏の通ひ路～」の舞台となる宍道湖・中海圏域は、日本を代表する「湖水地域」であり、出雲神話が語るこの地域の風景は、「斐伊川」「日野川」などの水系により形づくられたことから、圏域全体に共感を得られる言葉である「湖水」を冠した「湖水街道推進会議」とすることを提案いたしました。

これまでの「レーク街道推進会議」の「レーク」は、宍道湖、中海だけをイメージするが、「湖水」とすることで、海、川、山からの清水までをイメージし、圏域を表すに相応しいと判断したためです。

今後は、正式な名称変更手続きを行った後に、新名称による活動を行っていくこととしています。



パートナーシップ名称変更について説明する三代座長

■神話体験ツアー

とき：平成22年11月13日（土）8：00～14：30

場所：①御井神社（島根県斐川町）→②玉作湯神社（島根県松江市玉湯町）→③粟島神社（鳥取県米子市彦名町）→④華蔵寺（島根県松江市）

参加人数：33名

場 所	内 容
御井神社	<p>オオクニヌシが因幡の国で結婚を約束したヤカミヒメはオオクニヌシと共に出雲で暮らすことができず、御井神社までたどり着き御子をご出産。その御子を木の股に置いて因幡に帰られたという言い伝えがあります。</p> <p>オオクニヌシとヤカミヒメのお話を聞きました。</p>  <p>ヤカミヒメがご出産前にこの井戸の水で身を清められたと伝えられております。</p> 
玉作湯神社	<p>玉造の神であるクシアケタマ及びオオクニヌシ、スクナヒコナを祀る神社です。最近、境内にある「願い石」と社務所でお授け頂く「叶い石」で願い事がかなうということでも有名です。</p>  <p>触って祈れば願いが叶うと言われる「願い石」。ここに「叶い石」を置き願いをかけます。</p> 
粟島神社	<p>オオクニヌシと共に国作りをしたスクナヒコナが常世へ戻ったとされる場所として知られます。</p>   <p>延命長寿の守り神「八百比丘さん」（八百姫）のお話を聞きました。</p>
華蔵寺 (昼食：精進料理)	<p>松江市の枕木山の山頂に位置する華蔵寺で精進料理を頂き、吉本住職の御法話を伺いました。</p>   
案内看板	<p>ルート周遊を支援する目的に設置された案内看板を確認しました(ルート上に約50基程度設置)。</p>  <p>案内看板</p>   <p>風景説明板</p>

1. 開催概要

シーニックバイウェイ北海道 (http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/index.html) の取組は、本格始動から6年目を迎え、5月には9番目のルートが日本風景街道に登録されました。本年の地域交流会議は、活動の更なる発展と持続を目指した「交流」と、これまでの5年を振り返った「各ルートの想い」をテーマに、全道の活動団体、日本風景街道の活動団体、関係機関、民間企業、一般市民の方々など約250名が参加し、ルート活動の成果や知識・経験の共有とスキルアップの場として開催されました。

- ◆日 程 平成22年11月27日（土）
- ◆会 場 あけぼのアート&コミュニティーセンター
- ◆概 要 ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2009紹介、新ルート紹介、ルート活動紹介、テーブルセッション、ルート審査委員からの助言・総評、日本風景街道の活動紹介



全道フォーラム2010 開会の様子



2. 開催内容

(1) ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2009紹介

(大雪・富良野ルート／釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

昨年度の「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2009」最優秀賞に選ばれた2つの活動を紹介します。各ルート代表より、これまでの活動への取り組み姿勢や広がり、継続に向けた今後の視点などが述べられました。



大雪・富良野ルート

【ウィンターサーカス】



釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

【シーニックカフェ連携】

※今年度は、H23.2.12～13開催

(2) 新ルート紹介

平成20年より候補ルートとして、独自の活動を続けてきた十勝シーニックバイウェイ「トカプチ雄大空間」の指定に伴い、新ルート紹介が行われました。野村代表からは、隣接する十勝シーニックバイウェイの十勝平野・山麓ルート、南十勝夢街道との一層の連携等、今後の活動への決意の言葉をいただきました。

(3) ルート活動紹介・テーブルセッション

各ルートによる活動紹介は、9指定ルートと3候補ルートの12ルートを2つのブロック（各6ルート）に分け、この1年の取り組みや活動内容、ルート概要、今後の展望などについて報告があり、その後、全体でのテーブルセッションを2回行い、各ルート間での意見交換や、日本風景街道の活動団体との交流を深めました。

また、3名のルート審査委員（石田委員・臼井委員・高野委員）より、各ルートに対しての助言をいただきました。



各ルートからの活動紹介の様子



ルートテーブルの様子

【ルート審査委員の紹介】

- 石田 東生 氏（筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授）
- 臼井 純子 氏（株式会社富士通総研取締役 第一コンサルティング本部
エグゼクティブコンサルタントPPP推進担当理事）
- 高野 伸栄 氏（北海道大学大学院工学研究科 准教授）

※五十音順

(4) 日本風景街道からの活動紹介

九州・日南海岸きらめきライン・日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会副会長の横山氏から、「道の駅が担う地域の役割」について、また、中国・隠岐風待ち海道協議会事務局 野辺氏から、「隠岐風待ち海道の取り組み」について、話題提供をいただきました。

3. おわりに

全道の活動団体をはじめ、九州、中国の日本風景街道の活動団体、道内外のシーニック応援団が集結した地域交流会議（全道フォーラム2010）は、各ルートの持続的な活動と連携、交流をキーワードに来年の再会を約束し、閉会となりました。

風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。

掲示板利用の登録や、日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	種蔵 史典	011-709-2311(代表) (内線 5357)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	宍戸 英雄	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	下坪 賢一	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	遠藤 正樹	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	廣瀬 昌俊	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	竹井 賢二	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	角 秀俊	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	助田 豊治	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	中川 英一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	高良 哲治	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局地方道・環境課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>